

高島屋史料館開館 45 周年記念

きもの讃歌 与謝野晶子と百選会

直筆作品や詩歌463首7編など 晶子の高島屋での仕事の全容を一挙公開！！

- 会 期 : 2015年4月6日(月)～6月30日(火)
前期=4月6日(月)～5月16日(土)
後期=5月18日(月)～6月30日(火)
- 会 場 : 高島屋史料館(大阪市浪速区 高島屋東別館3階)
- 開場時間 : 午前10時～午後6時
※前後期ともに最終日は午後5時閉場(入場は閉場30分前まで)
- 休館日 : 水・日曜日
- 入場料 : 無料
- 協 力 : 与謝野晶子倶楽部

高島屋では2015年4月6日(月)～6月30日(火)まで、高島屋東別館(大阪市浪速区)の高島屋史料館にて、「高島屋史料館開館45周年記念 きもの讃歌 与謝野晶子と百選会」を開催いたします。

高島屋呉服催事「百選会」は1913(大正2)年に創設されました。歌人と謝野晶子ら多くの文化人を顧問に、毎回テーマと流行色を提示。全国の産地からきもの新柄募集を行い、高島屋が審査発表し、優秀作品を展示販売する斬新でモダンなきもの催事として昭和中期まで人気を博しました。

与謝野晶子は流行色の命名や、百選会の「きもの」に対して歌を詠んでいました。晶子の詩歌は、当時の高島屋のパンフレットや図録に掲載され、キャッチコピーとしても用いられていました。これらの詩歌は463首7編にも及び、これまでの晶子の全集などにもほとんど掲載されず「忘れられた歌」といわれていましたが、今回、高島屋史料館開館45周年を記念し、史料館にてそのすべてを公開させていただくことになりました。ほかにも与謝野晶子直筆「百選会色紙集」や、関連資料、また昨年復刻された戦前の百選会のきものなど約130点を展示し、晶子の高島屋での仕事の全容をご紹介します。



与謝野晶子 大正10年頃

与謝野晶子と百選会

1913（大正2）年に創設された「百選会」に、与謝野晶子は1917（大正6）年ごろから関わり、1919（大正8）年には初めて流行色を命名しました。1921（大正10）年からは、新作きもの審査会で、入選作品のきものや帯に対して歌を詠んでいます。それは1940（昭和15）年まで続き、詠んだ詩歌は463首7編、流行色の命名は286色に及んでいます。歌は1940（昭和15）年第67回まで、流行色命名は同年第68回まで、1941（昭和16）年は、百選会にかわって開催された「日本服装規制研究会」の顧問として関わりました。

463首7編について

「きもの讃歌 与謝野晶子と百選会」の企画進行にあたり、改めて所蔵資料を調査した結果、与謝野晶子が詠んだ詩歌は、高島屋史料館所蔵資料から現状では463首7編に及ぶことがわかりました。そのうち新たに存在が確認された10首は、1927（昭和2）年、第29回春の百選会で詠まれた歌で、「百華新聞」に掲載されていたことがわかりました。

（※「百華新聞」とは1926（大正15）年4月から1931（昭和6）年ごろまで、高島屋が発行していた日刊紙スタイルの新聞です。）



↑ 1927（昭和2）年 百華新聞 附録

↓ 1927（昭和2）年 百華新聞 附録（部分）

◆第29回春の百選会

<テーマ> 春の絵巻模様、春のラヴィ新生模様

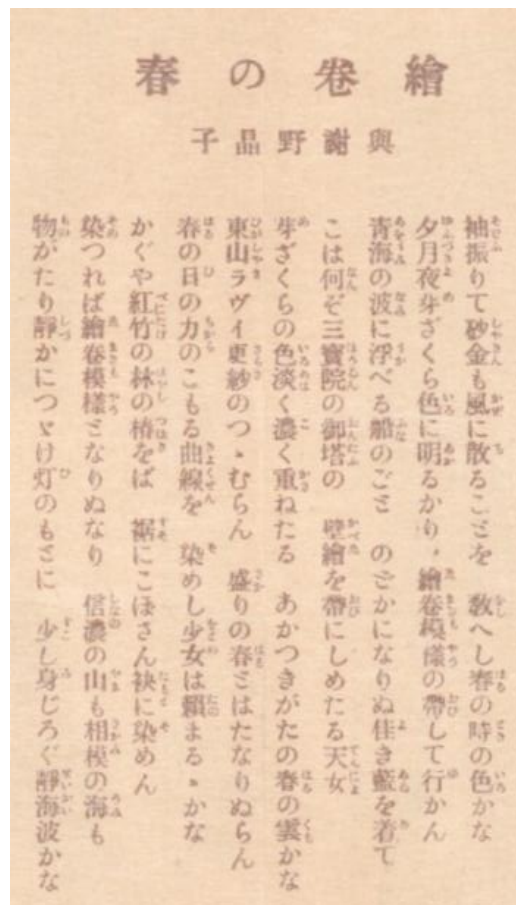
<流行色> 芽桜色（めざくらいろ）

青海波（せいかいは）

砂金色（しゃきんいろ）

赫夜紅（かくやべに）

- ・袖振りて砂金も風に散ることを教へし春の時の色かな
- ・夕月夜芽ざくら色に明るかり絵巻模様の帯して行かん
- ・青海の波に浮べる船のごとのどかになりぬ佳き藍を着て
- ・こは何ぞ三宝院の御塔の壁絵を帯にしめたる天女
- ・芽ざくらの色淡く濃く重ねたるあかつきがたの春の雲かな
- ・東山ラヴィ更紗のつつむらん盛りの春とはたなりぬらん
- ・春の日の力のこもる曲線を染めし少女は頼まるかな
- ・かぐや紅竹の林の椿をば裾にこぼさん袂に染めん
- ・染つれば絵巻模様となりぬなり信濃の山も相模の海も
- ・物がたり静かにつづけ灯のもとに少し身じろぐ静海波かな



直筆作品について

与謝野晶子の直筆作品を数点所蔵しています。今回、公開する「百選会色紙集」は1921（大正10）年、第17回春の百選会で詠まれた歌と讃歌序をまとめたもので、「序」と18首の短歌と1編の詩で成っています。

「色紙集」として全容を公開するのは今回が初めてです。



1921（大正10）年 百選会色紙集 表紙

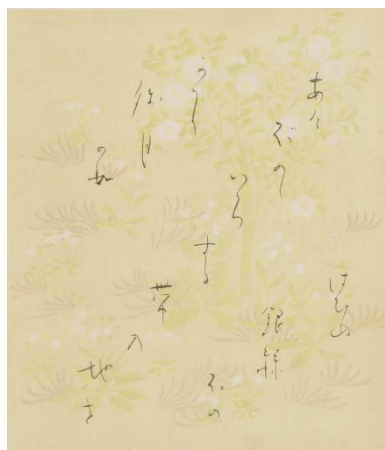
◆第17回春の百選会

- <テーマ> 新倭模様に終始すべし
- <流行色> 春潮色（しゅんちょうしょく）
嫩草色（わかくさいろ）
曙霞色（あけぼのがすみいろ）

（画像左） わたつみのうしほの色を上に着て風流男達へものいひてまし

（画像中） あけぼののいろする帯の地をはひぬ銀糸ほのかに残月の如

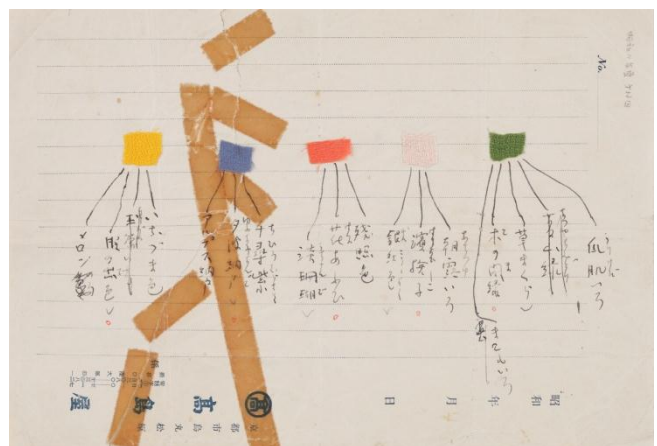
（画像右） 銀糸もて倭模様に衣におく楊家の女さへしらぬことかな



流行色の命名について

与謝野晶子は、1919（大正8）年、第13回春の流行色である黄味を帯びた穏やかな緑色を「平和色」としたときから1940（昭和15）年まで、286もの色を命名しました。

1936（昭和11）年、第55回夏の百選会の命名に関しては自筆のメモが残されています。色見本を見ながら幾つかの候補を考えていたことがわかる資料です。この回の流行色は、木の間緑、濱撫子、花あふひ、夕波納戸、月の出色でした。



1936（昭和11）年 流行色命名自筆メモ

百選会復刻きもの

2014（平成 26）年、第 62 回上品会の特別企画として、百選会復刻作品が企画出品されました。所蔵資料を参考に与謝野晶子の歌と結びつくきもの 15 点が復刻されました。

本展ではそのうち 14 点を展示いたします。【前期展示】

香ぐはしき近代の詩の面影を装ひとせん明眸のため

1929（昭和 4）年、第 34 回春の百選会ポスターの原画に使用された日本画家北野恒富作「婦人図」のモデルが着用していたきもの。ポスターには与謝野晶子の同歌が添えられた。



復刻きもの 2014（平成 26）年



キモノ大阪春季大展覽会ポスター（復刻）

原画：北野恒富 歌：与謝野晶子 1929（昭和 4）年

その他展示

【前期展示】 堺市博物館蔵 与謝野晶子筆「祝福歌」、「詩と女」、「連峯之雲」

※晶子の百選会顧問招聘時から関わりの深かった高島屋元役員川勝堅一から堺市に寄贈された作品。

【後期展示】 百選会で詠まれた歌をモチーフに「染・清流館」（京都）が選んだ染色作家による作品 10 点余

歌人 今野寿美氏による特別展示と講演会

【特別展示】 復刻作品に詠まれた歌 5 首

【講演会】 「与謝野晶子ときもの」

5 月 9 日（土）、6 月 13 日（土） 各日午前 11 時～、午後 2 時～

各回とも会場は高島屋史料館。各回定員 30 名様（要事前申込・先着順）、参加費無料

※今野寿美（このの・すみ）

歌人。東京生まれ。『さくらのゆゑ』まで十歌集、ほか『24 のキーワードで読む与謝野晶子』などの著書がある。宮中歌会始選者。